

平成28年度 学校自己評価・関係者評価表 (浜松開誠館中学校・高等学校)

教育方針	体罰といじめの根絶・笑顔が弾ける徳育の開誠館
重点目標	①K-compass・7つの習慣J・クエストエデュケーションに紐づいた実践・定着を伴う教育活動の実施
	②学習の基礎基本の定着・拡充と、主体的学び・協働性・表現力の向上を図る授業改善の取り組み
	③部活動や体育活動などを通して健全な心身と自主自立の精神の育成および基本的生活習慣の確立
	④グローバル化が進む社会でたくましく生き抜く生徒の育成

評価項目	目標	具体的な活動・取り組み	自己評価	改善策	学校関係者評価委員による評価		評価の理由、ご意見
					自己評価は適切か	改善方は適切か	
徳育指導	誠心敬愛にのつとめた教育で豊かな心を育てる。 生徒自ら未来を切り開く力を身に着ける	・「Kコンパス」「7つの習慣J」「クエストエデュケーション」の授業によって、心を育てる教育を実践する。 ・外部講師による夢力講演会を開催する。	B ・K-compassの授業を実施し、今年度も継続した。その結果、生徒への指導に一貫性が保たれ、「心を育てる教育」を実践することができた。 ・7つの習慣Jの授業の中で、生徒が経験する身近な例を取り上げながら、主体性を持つことを学び、仲間と協力することの意味を理解させることができた。また、授業の内容や生徒の感想をまとめた「7J通信」を通して保護者へどのような授業を行っているのかを伝えることができた。 ・夢力講演会は「未来戦略」の一つである「グローバル」に関連した内容(『グローバル人材』ってなんだろう変わりゆく世界の中であなたはどのように生きていきますか?)を実施した。 ・今年度より高2で探求活動をメインとした「クエストエデュケーション」が始まったが、生徒への動機づけや時間の確保等に課題が残った。	・「K-compass」「7つの習慣J」の授業だけが「徳育教育」でなく、学校教育全体が「徳育教育」につながるという教職員の意識をより向上させる取り組みを行う。 ・「フォーサイト」(予定や記録、目標などが書き込める手帳)の効果的な使い方(「7つの習慣」を学校生活に結び付ける)の例を生徒に示していく。 ・「クエストエデュケーション」をより効果的に進めるために、徳育推進課と担当学年が定期的に会合を持ち、進捗状況や問題点を共有し、改善していく。 ・「夢力講演会」の開催日(1月)は確定しているため、早い時期に“テーマ”を設定し、講師を確定する。	A	A	・継続することによって成果が得られると思う。 ・予定や記録をするノートを変更したのが大変良い。 ・親学講座への参加者が増えることを期待する。また、この講座内容が良いので、全校の保護者に積極的に広めるとよい。
学習指導	生徒に基礎学力を定着させる。 生徒の判断力・表現力・思考力を養い、主体的に学習に取り組む姿勢を確立させる。	・「授業の形」を徹底させる。 ・学習環境の整備を行う。 ・教員の授業参観や教科会議での討論を活発に行う。 ・教授方法を工夫(アクティブラーニングやICT機器の積極的な活用を含む)し、改善等に積極的に取り組む。	B ・概ね問題はなかったが、行事の前夜や学期始めや終わりなどで「授業の形」が徹底できなかった。 ・研究授業を実施し、教科内での討論を行った。年間を通じてこのような研修が行われたのは良かった。 ・ICT機器の活用が活発になった。その反面、機器の扱いに慣れない部分があり、今後の教職員の研鑽が必要と考える。	・「授業の形」を再確認し、教員間で指導の差が出ないように心掛けさせる。 ・生徒の私物整理について、きめ細かな指導を行う。 ・教室内の望ましい環境(公共物、私物の整理整頓)の状態を全体で共有し、徹底して行う。 ・ICT活用やALなどの新しい手法に関する研修を促進する。	A	A	・基礎学力を定着させる改善策を盛り込むべきである。 ・放課後には質問する生徒の面倒をよく見ている教員が多いのはよい。さらに質問する生徒を受け入れる環境を作るとよい。
進路指導	中1から高3までの6年間を通して連携を図る。特に、高3では、進路相談を充実させ進路保証をする。 進路を現実的に捉えさせ、進路意識の向上を図る。	・進路情報の収集・処理・発信を適切に行う。 ・学年教員との連携を図り、計画的・組織的な指導ができるように援助をする。 ・生徒の主体的な活動を援助できるように、進路室の充実を図る。	B ・進路室の環境整備を行い、進路室の整備や掲示を行った。また、進路資料や学校案内の中身を精選して生徒に配布することができた。 ・昼休みや放課後に進路室を利用する生徒が増え、進路活動の支援が充実してきた。 ・高3の進路相談の充実を図り、希望進路の実現につなげることができた。	・進路情報の適切な扱いについては、生徒の主体的な活動を支援するように次年度以降も工夫していく。 ・進路学習は、前年度反省をいかして内容の工夫と効果的な実施時期を検討する。 ・各学年の進路学習については、内容と継続性の観点から進路シラバスを整備するなどの改善が必要である。	A	A	・夢を持つのも大切だが、現実に見合った指導をするべきである。 ・進路環境を整備してすべてのコースの生徒に対して進路指導を充実させていけばよい。 ・進路指導を続けると力になるが、高3では遅い。6年制の利点を生かして、中学3年からの指導が好ましい。 ・教員の進路指導スキルを上げる必要がある。
品格人格指導	浜松開誠館あいさつ基準を周知徹底する。	・教職員による朝のあいさつ習慣を実施する。(教職員があいさつの手本となるよう促し実行) ・生徒・教職員へ開誠館あいさつ基準を提示する。 ・生徒課・学年・クラス担任・部活動顧問と連携する。	A ・あいさつ基準の周知に関しては、あいさつ基準表の配布と各教員の協力もあり、生徒の意識改革に繋がった。 ・挨拶の徹底は、年度当初に比べ意識して改善でき、習慣化している生徒が増えている。	・理想的なあいさつの習慣化へ向けて、各クラス担任・部活動顧問との連携をさらに強めていく。生徒の意識改革・習慣化は日々の生活の中から生まれてくる。 ・理想的なあいさつの実施、習慣化に向けての継続指導を行う。	A	A	・挨拶はホームページでも紹介されていて、生徒の感じが大変良い。 ・挨拶が良くできる学校であるとの評判が高い。 ・朝掃除をしている生徒の挨拶は素晴らしい。
生徒指導	規律とマナーを重んじ、学校の基準で統一した生徒指導をさらに向上させる。 生徒の自治意識の向上を図る。	・生徒指導方針の提示と生徒課日報発行による統一した指導を実践する。 ・頭髪・服装検査を実施する。(月1回) ・週1回の生徒課会合を開催する。 ・校内外の生活指導を充実させる。 ・委員会活動を活発化させる。 ・生徒会新聞の発行・挨拶運動など、季節に応じた雰囲気づくりを行う。 ・生徒の意見を傾聴し(意見箱)、よりよい学校生活へ導く。	A ・生徒指導方針の提示を行い、通年で教職員がクラスや学年で基準に沿って指導を実践した。また生徒課会合で情報共有し、それを踏まえ全教職員に生徒課日報などを通して状況を伝え、指導に生かすことができた。 ・生徒会は、生徒会新聞の発行やいじめ防止の標語の作成・掲示、意見箱の設置を実施した。そのため、安心な学校生活を送るために自治的に取り組む姿ができ、少しずつ存在感が表れてきた。	・生徒自らが校外でも自立した行動をとれるようにする。そのためには校内での粘り強い指導をさらに強化していくことと、定期的に校外巡視を実施し、生徒の様子を観察していく。	A	A	・生徒の身だしなみが良い。 ・自転車の走行で気になる点がある。生徒の走行についての指導を強化するべきである。
保健安全管理	教育活動全体を通じて、相談しやすい雰囲気や環境を作る。 教職員と生徒による「いじめゼロ」の決意のもとに「いじめを許さない学校」を作る。 防災意識の向上を図る。	・教育相談的な考え方を生かした指導資料や実践事例を紹介する。 ・諸検査の活用や教職員間の情報共有により、多面的に生徒を理解し、全体や個に応じた指導に生かす。 ・いじめ防止対策基本方針に基づき、HR・生徒集会にて「いじめ撲滅宣言」、年2回いじめアンケート等の活動や指導を実践し、いじめ防止の考えや対処を周知させる。 ・ヘルメット、防災頭巾を常備する。また、年3回の避難訓練を実施し、防災意識を高める。	A ・教育相談で、具体的な生徒との関わり方や指導方法を紹介したり、諸検査の結果を提示して生徒理解に活かすことができた。 ・普段からの多面的な生徒観察や、教員・生徒会による「いじめ撲滅宣言」、年2回はいじめアンケートや追跡調査の活用等により、いじめの防止や抑止に学校全体で取り組むことができた。 ・本校の文化祭は2回実施した。迅速かつ安全に実施ができ、生徒も防災の意識を高く持つことができる取り組みができた。	・hyper-Quを早期に実施し、集団分析からいじめ・不登校の早期発見をし、予防措置を取れるようにする。 ・予告なく突然行う「地震避難訓練」であっても、全員が意識を高く持ち、迅速・安全に避難できるようにする。また、今後も生徒の防災意識を高めるよう、講話等を実施して啓発していく。	B	A	・生徒が先生に相談できる環境をもっと整えるべきである。また、生徒の逃げ場所も作っておくとよい。 ・いじめがあるなしにかかわらず、対応策を考えておく必要がある。 ・いじめアンケートを家庭に持ち帰って記入するように変更し、記載しやすくなってとても良い。
研修(資質向上)	若手教員と中堅教員が実践的な指導力を身に着ける。	・授業力向上のため、アクティブラーニングをはじめとした効果的な指導法を共有する。 ・学級経営力(生徒指導や進路指導)を高めるために、先輩教員の指導法を観察し、摂取できる環境を構築する。 ・中堅教員が学校の中核を担うに必要なスキルを得るための研修に積極的に参加する。	B ・アクティブラーニングは効果的学習方法であるが、多くの教職員が活用できていない。知識の共有から知りえた事項を再構成し、アウトプットするといったサイクルを生徒に根付かせるためには、教員各自が積極的に取り入れる姿勢が必要である。 ・学級経営力を高めるために先輩教員から後輩教員にアドバイスをを行った。 ・中堅教員が学校の中核を担う意識が高まっている。このようなエネルギーを学校発展のために活かす場を今まで以上に作る必要がある。	・「力が付く授業・わかりやすい授業」を生徒に提供するために、教員自身の自己研鑽と、指導法の共有化を図る。 ・アドバイスを聴き受ける側に積極的な態度で取り組むように指導する。 ・他校の成功事例を学ぶ研究会などを定期的に行うなどして、未来戦略を具現化し、目に見える成果を上げるために何をすべきかを考える場を作る。	A	A	・自浄作用が働いていて良い。
保護者・地域住民との連携	学校の様子をより広く知っていただき、信頼される学校を目指す。	・保護者にはきつなネットを活用して、文化祭・体育大会・公開授業等の学校行事への参加を呼びかける。 ・地域住民の方々を学校行事に招待する。	A ・文化祭・体育大会等の学校行事には近隣の自治会長や関係者などの多くの保護者が来校した。公開授業については低学年の保護者の関心が高く、中学生の保護者が高校生保護者よりも多かった。 ・本校の文化祭のバザーは毎年人気があり、地元地域の住民の方々にも大勢来校し、大盛況であった。また入学式や卒業式には地元の自治会長にも出席していただき、本校の教育活動に理解を得ることができた。	・公開授業における高校生の保護者の参加率を上げるために、も授業参観だけではなく、当日に学年で進路説明会などの実施を検討する。 ・文化祭は地元住民との交流の場でもあるため、バザー以外にも喜んでいただけるような企画を検討する。	A	A	・学校は地域に対して気を配っていると思う。特に公園の掃除もよく行っている。 ・保護者参観日や保護者会を増やすとよい。 ・保護者に対して学校の様子を今まで以上に伝えていくことを期待する。

(注)・評価表の見方

3月 総合評価の公表(年間の教育活動に対する総合評価)ABCDの4段階で示す。

・評価者は、教職員、生徒、保護者、その他学校関係者による。(項目によりすべての評価者によらない場合がある)

・ABCDの基準は、肯定的な評価が75%以上をA、50%以上75%までをB、25%以上50%までをC、25%未満をDとする。